



「AIの時代を生きる」

日向市立寺迫小学校 校長 **伊東 剛**

オックスフォード大学のオズボーン博士は、「今後20年以内に消える仕事・残る仕事」の中で、今の仕事の47%は、機械が行うようになると予測しています。実際、回転寿司に行くと、お店の人に注文するのではなく、タブレットで注文をとりますし、スマホに、「今日の天気は？」と尋ねるときちゃんと答えを出してくれます。人工知能(AI)が人間に替わって仕事をする時代がやってきました。「鉄腕アトム」の世界が現実になりつつあるのです。

自分の子どもの頃は、親の仕事を見る機会が多くあり、働く姿や表情・言葉等から、「大変そうだ」「手伝おうか。」などと直接気持ちを交流させることができました。そういう機会が少なくなったAIの時代の子どもたちは、ますます大変な時代を生きていかなければなりません。

私の一番の願いは、一人一人が、大きな夢をもち、自分の生きていく道を見つけ、より幸せな人生を送ることができることです。そのためには、市の「よのなか先生」と連携し、仕事に対する理解を深めさせたり、様々な活動を体験させたりして、キャリア教育をさらに充実させ、市の未来を担う立派な子どもたちを育てていきたいと思っています。



「試行錯誤しながら継承・発展を目指す大王谷学園」

日向市立大王谷学園 校長 **高森 賢一**

本校は、地域を巻き込みながら小中一貫9か年で進めるキャリア教育に2014年より取り組んでおり昨年度文部科学大臣賞も受賞しました。本年度より校内研究のテーマがキャリア教育から別のものになりましたが、キャリア教育推進委員会という組織は残り、キャリア教育支援センターの方々にも参加してもらいながら、キャリア教育の取組向上に向け試行錯誤を続けています。現在は、今回の改訂で「キャリア教育の要と位置付けられた

特別活動」について熱く議論しているところです。今後は、これまで積み上げてきた「核となる体験活動」の更なる充実や、「一人一人のキャリア形成と自己実現を目指す特別活動」の研究・実践に取り組みます。また、「キャリア・サポート」の活用などにも積極的に挑戦していきたいと思っています。職員の入れ替わりは当然ありますが、これまでの取組がこれからも継承され、更によりよい実践が持続して行われるよう、職員一丸となって努力していきます。



「〇〇だからで自分を決めつけない」

株式会社木村工務店 代表取締役 **木村 礼子**

建設業＝男性の職場と思われがちですが、女性でもやってきたことを、子供たちに伝えたいと思い話をしました。3階建ての屋根に登り、職人さんたちからびっくりされたこともありますが、それは私が女だから高いところは苦手だろうというイメージだけのことです。男でも高いところが苦手な人もいるように、私は自分のできることは何でもやるように努力しました。また資格取得の際は、学生のと看何の役に立つのだろうと思った数学や物理が、本当に必要なものだと気づかされました。社会に出てからが本当の勉強で、そのために今の勉強があるのだということの子供たちに伝えることと、「自分は〇〇だから」といった枠を作ることなく、子供が自分のやりたいことを探す手助けをすることが、よのなか先生や親や教師大人の務めだと改めて感じるよのなか先生の授業体験でした。感謝。



「仕事のやりがい」

中村真税理士事務所 代表税理士 **中村 眞**

自社の仕事のやりがいをどう伝えるか？高校生への「よのなか先生」の授業を通じて、この事を改めて考えさせられた。税金を取り扱う仕事をする中で、これまでも小学生への租税教室等で税金の大切さは伝えてきた。今回は仕事を、生きていくうえでお金を稼ぐ目的のためだけと捉えている子供たちに対して、そのやりがいを伝えたかった。税金やお金に関する多くの知識を仕入れて、お客様の生活に役立ててもらい、喜んで感謝して頂くことで、仕事での充実感を得る。我々の仕事では基本的にこの事が一番のやりがいとなると思う。

キャリア教育で、様々な業種の会社で働いている方々が実際に生徒の前で話すことは、教科書には載っていない多くの事を感じてもらえる場になると思う。新規採用の面接でも必ず聞く事に「あなたにとって仕事とは働くとは何ですか？」ということがあるが、学生の時期から、人生の中でも大きな軸となる「仕事」に対して夢を持ってもらいたい。



日向の大人はみな ※ 「日向市キャリアフォーラム」

子供たちの先生

日向市キャリア教育支援センター

テーマ ～語ろかい「ひゅうが学びの学校」～



11月19日(月)ベルフォート日向 参加者102名 4部構成で開催

日向市でキャリア教育がスタートして5年が経過。これからの5年間を見据えて取り組むべき方向性を協議。

主催:支援センター 共催:日向市教育委員会・日向商工会議所

フェーズⅠ



今村教育長



南日本ハム 徳丸社長



マルイチ 高木会長



日向中島 島原社長



せれくと 木元社長

今村教育長のあいさつの後、企業経営者4人の方の企業方針や理念、人材育成、学校と取組内容についての基調報告。

報告を受け、各班に分かれ「ひゅうが学びの学校」を創造するワークショップを行い、協議・発表。

コメントは水永センター長。(ワークショップの様子)



フェーズⅡ

大王学園飯干先生の基調報告。フェーズⅠで一人一人が書き出した課題をコピーして全員に配布。「ひゅうが学びの学校」の具体的な取組みや課題解決の方法について参加者が11班に分かれてワークショップ。まとめの講評は社会福祉協議会の細山田さんと市教育委員会の野邊さん。



第16回「よのなか先生」研修会

18時から三輪商工会議所会頭のあいさつに続き、同女性会の鈴木睦代さんが「キャンドルよのなか教室」の取組み、ミツイシの黒木宏二さんが「はまぐり暮石」の取組について小学生向けの発表を披露。その後質疑応答が行われた。



第16回「よのなか先生」等交流会

長時間にわたるフォーラム、研修会を経て19時から企業の皆様、各小中高校の先生方、「よのなか先生」の方々が集い、交流を深め、それぞれの「子供の未来づくり」にかける熱い思いの一端に触れることができ感謝申し上げます。ありがとうございました。引き続きご支援ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

